

# 研究公開文書

2025 年 7 月 8 日

<b>研 究 名</b>	シャーガス病患者を対象とした Benznidazole 単剤療法または Nifurtimox 単剤療法、もしくは Benznidazole 単剤療法から Nifurtimox 単剤療法へ切り替えた場合における有効性及び安全性を評価する多施設共同臨床研究
<b>研究の概要</b>	<p>シャーガス病（別名：アフリカトリパノソーマ病）は <i>Trypanosoma cruzi</i> 原虫がサシガメという昆虫の媒介により動物やヒトに感染して引き起こされる感染症である。放置すると遅発性の合併症により死に至る可能性がある。主にラテンアメリカ 21 カ国で見られ、世界中で約 7000 万人が感染リスクに晒されている。約 600 万人の感染者が存在し、毎年 1.2 万人が死亡していると推定されている。現在、ボリビアの有病率は 30%、ブラジルは 1%程度である。若い頃に感染し、年余を経て中高年になってから、心不全、致死性不整脈、巨大結腸、イレウスが問題となる。本邦では三重県、静岡県、神奈川県を中心に移住者のうち、約 3000 人の感染者が存在すると見積もられている。しかし言葉の障壁と本邦の医師が疾患を想起しないため、多くは診断されずにいると考えられている。</p> <p>出身地と症候より疑う場合は迅速診断キット（イムノクロマトグラフィ法）を用いてスクリーニングを行い、陽性者は研究班所属の検査担当機関へ検体を送付し PCR にて診断確定を行う。その後に Benznidazole 単剤療法または Nifurtimox 単剤療法、もしくは Benznidazole 単剤療法から Nifurtimox 単剤療法へ切り替えて治療を行う。これらの薬剤と診断キットは熱帯病治療薬研究班より供与される。診断と治療経過の報告書を作成し、国立国際医療研究センター病院・国際感染症センターに送り、統計解析が行われる。</p>

研究対象	出身地と症候より疑う患者を対象とする。
研究責任者	総合診療・感染症科 部長 日谷明裕
研究実施期間	2025年8月1日より5年間
連絡先	小田原市久野46番地 小田原市立病院 0465-34-3175